

## 講演1 「河原町芹町の大切な価値」

続いて、濱崎一志・彦根景観フォーラム理事長が、伝建地区の基礎調査の成果をもとに、「今日の話は細かな話だが、彦根の民家の特徴を意識して次の世代に生かしていただきたい」と講演を始められました。

### 彦根らしい町家の特徴

河原町芹町の建物の建築年代は、江戸期が約25%、明治・大正・昭和の戦前まで合わせても50%ぐらいだが、木造の伝統様式の町家や蔵などが比較的好く残っている。ほとんど

が2階建までで、道からみると空が開けたまちなみが続く。

町家の第1の特徴は、近江八幡



や京都は町家の1階と2階の壁が一つになって垂直に立つが、彦根は2階の壁から半間手前に1階の壁が出てくる。2階の荷重を支えるため幅の太い桁や野ものの部材を入れ、半間分道路側に出した空間は畳を敷いて部屋と一体的に使う。道路側から見ると1階に対して2階がセットバックしていて、上方向に開放感があり空が広く見える。

第2の特徴として、彦根では表通りに面して長屋が多いのが特徴だが、間取りにも特徴がある。江戸末期の建物の平面では、通り庭の横に、幅1間の部屋が3室、8畳が3室の2列構成になり、幅1間の部屋の上に「つし」(柴おき)がある。この幅1間の狭い部屋が3室も続くのは非常に珍しい。通路の機能も併せもつのかと推測している。こうした平面プランが彦根城下町全体と中山道沿いの民家に多くみられる。

### 特色のある町家

こうした町家以外にも特色のある建物がある。

「寺子屋力石」は、寺子屋として独特の間取りで、しかも歪んだ敷地いっばいに建物を建てた結果、梁が平行にかかっていない。他にも、ゆがんだ敷地いっばいに家を建てて、大工が非常に苦労した建て方の家がある。

「旧石橋家」は、表屋造りという形式で、京都で流行したが、滋賀県では珍しい。京都の表屋造りと比較して2階の背が高いのが特徴である。

### 彦根らしさとこれからの住まい方

このように、河原町芹町には、彦根らしい特徴をもつ建物がかかり残っている。20年、30年先に自分たちはどういった住まい方をしたいのか、彦根らしさとは何かを念頭において、これから協議をすすめていただきたいと講演を締めくくられました。

### 地区の課題に取り組む保存会

前半の最後に、下間さんに「重伝建地区が選定されて40年たつが、高齢化等で保存会の運営や伝建地区の維持が困難なところはないか。」と質問されました。

下間さんは、「伝建地区でも保存会の高齢化や一般地区と同様に空き家の増加などの課題がある。しかし、住民がまちを維持すると決め、団結してまちづくりに取り組む保存会などがある地域では、プラス思考で次にどうしようと対策に取り組み、周囲もそれを知っているので応援する。また、伝建地区どうし、住民は住民で、行政は行政で、全国規模で情報交換を行う場があり、ノウハウを交換しあうなどのコミュニケーションが非常にうまく働いている。いまのところ選定解除をしてほしいという相談は受けていない。」と回答されました。(次号につづく)



## NPO法人 彦根景観フォーラムのご案内

彦根景観フォーラムは、まちの景観づくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、市民、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。様々な情報を事務局までお寄せ下さい。

●ブログ <http://hikone-keikan.seesaa.net/>

●定例会 毎月第3金曜日 午後7時～9時 滋賀大学陵水会館 誰でも自由に参加できます。

●お問合せ：彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968 FAX 0749-27-1431

E-mail: [hikonekeikan@hotmail.com](mailto:hikonekeikan@hotmail.com) まで



# きらっと彦根 vol.46

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2017年1月15日 通巻46号 編集/発行 NPO 法人 彦根景観フォーラム

## 明けまして、おめでとうございます

去年は、3月に彦根市芹橋二丁目まちづくり憲章がまとめられ、自治会で発表されました。7月には彦根市河原町芹町地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、美しいまちづくり委員会が発足しました。多賀町でもかやぶき屋根の補修や古民家の活用が進むなど、みなさんの努力が少しずつ実を結び始めた年となりました。

彦根景観フォーラムは、設立から15年になります。振り返ると長い時間ですが、継続することで不可能と思えたことも少しずつ実現することが実感できます。

市民・住民こそまちづくりの「施主」です。2017年も、新鮮な気持ちで一緒にまちづくりに取り組んでいきましょう。

## かやぶき屋根補修ワークショップ

平成28年10月30日（日）、多賀町栗栖（くるす）の民家で、かやぶき屋根を補修するワークショップを開催し、地元の人や一般参加者、滋賀県立大学生など約10名が、専門の職人に指導を受けながら作業しました。この民家では、腐植の激しい北側に前年に伊吹山から採取したかやを補充する「差しがや」を行



いました。最後に職人さんがかやの端を切りそろえ、美しい形がよみがえりました。

## 多賀里の駅一圓屋敷の集い97（1月7日）

### 緑のふるさと協力隊員が感じたこと

北島 圭さんは、多賀町では6人目の緑のふるさと協力隊員。平成28年4月から大杉の空き家に住み、山林組



合などでの活動、大杉での地域活動、そば販売やかわら版発行などに取り組みました。任期が終わる4月からは倉敷で町屋改修に取り組まれるそうです。

多賀は、まちと山村が隣り合わせで、交通の便がよく地域資源も豊富なのに、うまく流れていないのが残念と感じる。残りの期間で東屋やベンチを作りたいと話されました。

農家レストランの昼食は、根菜和風カレーと丁子麩フライ。創造性とおいしさがミックスしたベジタブルメニューでした。



## 足軽辻番所サロン「芹橋生活」70

### 彦根藩士と地域社会

～藩士 山本半左衛門家を中心に～

3月12日（日）10：30から善利組足軽屋敷「辻番所・旧磯島邸」（彦根市芹橋二丁目5-19）で、母利美和さん（京都女子大学教授）にお話しいただきます。資料代：100円。

## 特集：彦根市河原町芹町伝統的建造物群保存地区

重伝建地区選定記念シンポジウム「重伝建とまちづくりを考える」